

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (四国)	◎	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあるため、年末にかけて景気がかなり回復すると期待している。
	◎	一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染症がこのまま終息すれば、景気は大きく回復すると思う。
	◎	旅行代理店（営業担当）	・インバウンドの入国者数制限の緩和や10月から実施される全国旅行支援により、国内旅行の需要は大幅に拡大する。
	○	商店街（事務局長）	・新型コロナウイルスの感染再拡大やウクライナ情勢、急激なインフレ等の不安要素はあるが、インバウンド受入れの条件の緩和や全国旅行支援の始動により景気が回復することを期待している。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	・店頭への来客数はまだ元どおりではないが、ネットでの注文数が増加している。
	○	百貨店（販売促進）	・年末にかけて新型コロナウイルスの感染状況が少し落ち着き、消費意欲が増すと予想する。
	○	スーパー（人事）	・あらゆる商品の値上げが消費者の暮らしの負担になっていることには変わらないが、スーパー各社で様々な割引キャンペーンも実施しているため、消費は活発化すると思う。
	○	衣料品専門店（営業責任者）	・10月から全国旅行支援が開始されるため、旅行需要とともに衣料品の動きが良くなると期待している。まだまだ慎重な客がいるが、消費に前向きな雰囲気が醸成されることで少し景気は上向くのではないかと思う。
	○	乗用車販売店（役員）	・年度末に向けて生産状況が回復するとの報道があったため、景気が回復することを期待している。
	○	一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が終息し、景気が回復することを期待する。
	○	観光型旅館（経営者）	・10月から全国旅行支援が開始されることにより、秋の観光シーズンが盛り上がると思う。
	○	通信会社（社員）	・コロナ禍の生活に慣れ、客の動きが少し活発になってきている。
	○	通信会社（営業担当）	・コロナ禍の生活様式が定着し、客の動きが安定している。
	○	通信会社（支店長）	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う規制が緩和されると同時に、購買や旅行等を促進する施策も導入されることから、このまま推移すれば景気は上向くと思う。
	□	商店街（代表者）	・10月から始まる全国旅行支援や、政府による円安や燃料費価格高騰に対する対策がどの程度効果を発揮するのか不透明であり、先行きが見通せない。
	□	一般小売店〔文具店〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は徐々に減少傾向にあるが、コロナ禍前の状態に戻るにはまだ時間が掛かると思う。来年の春頃には明るい兆しがみられることを期待している。
	□	スーパー（企画担当）	・売上は横ばい程度で推移すると予想する。
	□	コンビニ（商品担当）	・依然として円安やウクライナ情勢等が続いており、状況は変わらない。
	□	コンビニ（総務）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、商品の値上げによる影響が少なければ、現状が続くと予想する。
	□	家電量販店（店員）	・今後も更なる値上げの波が予想されるため、依然として厳しい状況が続くと思う。
	□	乗用車販売業（営業担当）	・依然として半導体不足が解消される見通しが立っておらず、状況は変わらない。
	□	乗用車販売店（従業員）	・半導体不足による自動車生産の遅れが解消されない限り、現状が続く。
	□	乗用車販売店（従業員）	・メーカーの新車生産台数が改善されれば、景気も改善に向かうと思う。
	□	都市型ホテル（経営者）	・来客数は増加する見込みであるが、物価上昇の影響により消費単価は減少する。
	□	タクシー運転手	・当県の新型コロナウイルス新規感染者数は減少傾向にあるが、依然として昼も夜も人の動きは少ない。年末にかけて人の動きが活発化するかどうか不透明であり、しばらくは現状が続くと予想する。
	□	観光遊園地（職員）	・新型コロナウイルス感染症の第7波は収束傾向にあるが、円安や原油高の影響が大きく、状況は変わらない。
□	設計事務所（所長）	・円安が更に進行すると、現在好調な製造業や建設業も失速する可能性がある。	

	▲	商店街（代表者）	・旅行や外食を促す取組を実施しているが、人の動きは鈍い。更に、10月からは様々な物が値上がりする予定であり、景気が回復する要素が見当たらない。
	▲	商店街（代表者）	・当地域では政府によるまちなかウォークブル推進事業に基づく街づくりをどこまで進められるかによって街の景気が左右されると思うが、現時点では明るい未来は見通せない。
	▲	スーパー（店長）	・物価高が更に進行し家計を圧迫するようになり、消費が抑制されると思う。
	▲	スーパー（店長）	・物価高騰により節約志向が強まり、消費活動が停滞すると予想する。
	▲	スーパー（財務担当）	・物価の高騰が続くことで客の来店頻度が落ち、売上が減少すると予想する。
	▲	コンビニ（店長）	・来客数が増加していないため、景気が良くなるとは考えられない。
	▲	コンビニ（店長）	・9月中旬頃から客足がかなり鈍くなっており、現状が続けば売上は悪化すると予想する。
	▲	家電量販店（副店長）	・10月以降の材料費高騰に伴う物価高の影響により、来客数の伸びは期待できない。
	▲	その他専門店〔酒〕（経営者）	・原材料価格の高騰や円安の影響でビールや酒類が値上げする前に買いためをする客が多いため、2～3か月後には反動で売上が悪化する。
	▲	通信会社（営業部長）	・様々な商品が値上げされることによる影響で、徐々に景気が悪化すると予想する。
	▲	競輪競馬（マネージャー）	・10月からの物品の更なる値上げが、遊興に回せる余裕資金を押し下げると予想する。
	▲	美容室（経営者）	・例年秋頃は来客数が減少するが、本年もイベント行事等が活発化しない限り、売上増加は見込めない。
	▲	美容室（経営者）	・景気回復に向けた良い要素が見当たらない。
	×	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・10月から多くの酒類が値上がりすることに伴い、客が9月中に買いためをする傾向にあり、当分の間は売上が減少すると思う。
	×	スーパー（統括担当）	・多くの仕入先からの要請を受け徐々に商品を値上げしているところであり、今後ますます来客数が減少すると予想する。
	×	衣料品専門店（経営者）	・円安や物価高等、家計を圧迫する要素が多いため景気の回復は見込めない。
	×	その他小売〔ショッピングセンター〕（総務部担当部長）	・世界規模での景気後退の可能性が高まっていることや円安の当面の継続、原材料の価格高騰、10月の値上げラッシュ等の影響により家計が大きく冷え込むと予想する。
企業 動向 関連 (四国)	◎	—	—
	○	食料品製造業（商品統括）	・円安の影響により、一部の企業では国内製造の増加や従業員の給与アップにつながっている。
	○	鉄鋼業（総務部長）	・新型コロナウイルスの感染状況が収束に向かえば、徐々に生産量の回復につながると思う。
	○	輸送業（営業）	・円安や原油高による物価上昇等、消費者の購買意欲を低下させる要因はあるが、10月からは全国旅行支援の開始が予定されており、人流の活発化といった明るい話題も多いため、景気は上昇基調に転ずると予想する。
	○	輸送業（経理）	・海外向けの出荷数量が増加しており、東南アジア向けの新規販路も拡大している。
	○	通信業（総務担当）	・社外イベントやボランティア活動なども少しずつ従来の形式で開催されるようになり、参加者数も増えつつあるため、現状が続けば改善傾向に向かうと思う。
	○	通信業（企画・売上管理）	・サッカーワールドカップを始め、スポーツ産業の盛り上がりによる景気回復を期待している。
	○	広告代理店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が収束傾向にあり、全国旅行支援も実施される見込みであるため、旅行関連の販売促進広告が増加し、売上が回復すると予想する。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・新型コロナウイルス感染症の影響で、除菌や掃除用のウェットクリーナーの需要は多いが、供給も多いため売上は横ばいである。今後もこの傾向は続くと思う。
	□	化学工業（所長）	・新型コロナウイルス感染症の終息時期が不透明であり、ウクライナ情勢も長期化しているため、先が見通せない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・依然として円安や日本株安が続いており、景況感是不変変わらない。

	□	電気機械器具製造業（経理）	・新型コロナウイルス感染症の第7波は収束傾向にあるが、ウクライナ情勢の長期化や円安基調により物価高の改善が見込めないため先行きは不透明である。
	□	建設業（経営者）	・公共事業は堅調だが、前年度ほどの事業量や発注量はなく、本業で売上額や受注額が上振れする見通しは立っていない。今後の景況感新型コロナウイルスの感染拡大状況により左右される。
	□	建設業（経営者）	・今後の公共工事の受注状況次第である。
	□	輸送業（経営者）	・引き続き円安による物価高騰が続いており、先行きが不透明である。
	□	税理士事務所	・景気がプラスになる材料が少なく、国際情勢も不安定であることから、先が見通せない。
	▲	食料品製造業（経営者）	・円安の影響により原材料等の仕入価格やエネルギーコストが上昇しているため、今後も経営状況が悪化すると推測する。
	▲	繊維工業（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せず、円安不況や食品価格の高騰等もあり、消費者の購買意欲は今後更に厳しくなる。当社を取り巻く環境も、原材料価格の高騰や労働力不足、エネルギーコストの上昇等、これまで経験したことのない厳しい状況にあり、今後は経営状況が更に悪化すると予想する。
	▲	一般機械器具製造業（経理担当）	・世界的な金融引締めによる景気後退や新型コロナウイルスの感染急拡大に対する懸念があり、先行きの不透明感が強まっている。
	▲	金融業（副支店長）	・取引先の中には、円安の影響により資材価格の仕入価格が上昇したことで、経営状況が今後悪化することを懸念しているところもある。
	×	農林水産業（職員）	・日販品等が値上げされた影響により、野菜の販売価格を上昇させざるを得ない状況となっている。10月から値上げされる品目は多いため、影響が更に強まることを懸念している。
雇用 関連 (四国)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（営業）	・今後も新型コロナウイルス感染拡大に伴う行動制限は掛からない見込みであるため、年末にかけて繁忙期を迎える業界の求人募集数が増加傾向となる。
	○	職業安定所（職員）	・求人倍率が全国的に改善しており、景気が良くなる傾向がみられる。
	○	職業安定所（求人開発）	・値上げによる消費の冷え込みが懸念されるが、10月から全国旅行支援が実施されることで人の動きが活発化し、やや経済が活性化すると思う。
	○	民間職業紹介機関（所長）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきており、観光業界を中心に活動が活発化し、求人数が増加すると予想する。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・企業の手不足は恒常的な要因が多く、しばらく状況は変わらない。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・景気低迷の影響により、派遣に求人を出す企業が減少することを懸念しており、先行きが不安である。
	▲	求人情報誌（営業）	・観光業界とその周辺業界では全国旅行支援による景気の持ち直しが期待されるが、どのくらいの経済効果があるかは不透明である。その他の業界では、円安による原材料費高騰等の影響で打撃を受けており、回復まではしばらく時間を要すると思う。
	▲	求人情報誌製作会社（従業員）	・異動に伴う求人が落ち着き、今後は求人数が減少すると予想する。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・物価上昇の影響で、今後も民間の広告出稿状況は厳しい状況が続くと予想する。
	×	—	—